

道徳的価値の内面化を図る道徳授業の工夫 —資料の効果的活用を通して—

南城市立大里北小学校教諭 照喜名 真理子

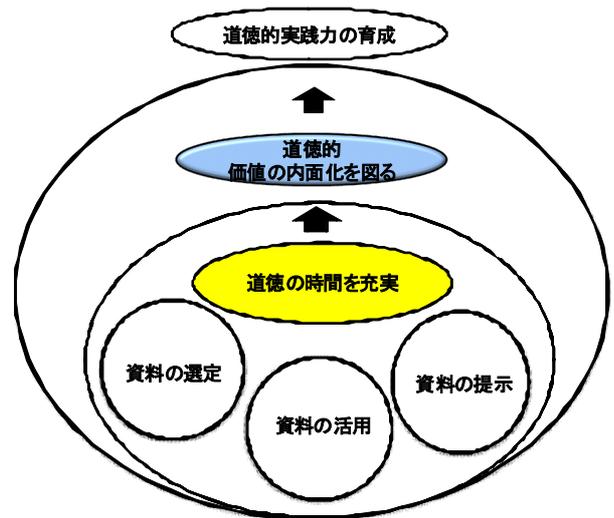
1 研究の目的

これまで、副読本の読み物資料を使い授業を行ってきた。しかし、読み物資料の流れを追うような読解指導的な授業が多かった。児童は、資料の内容やねらいとする価値をわかってはいるが、日常生活の中でなかなか実践できないことから、児童の内面に響かない授業を展開しているのではないかと反省する。

そこで、資料の選定と活用、提示の仕方を考え、道徳的価値の内面化を図る道徳授業の工夫、改善を行っていく。

2 研究の特徴

- 資料の選定・・・児童の心に響く資料
- 資料の活用・・・資料の特質を活かした活用
- 資料の提示・・・視覚にうったえる提示



3 授業の実際



道徳の時間の充実をめざして



紙芝居による資料提示

4 研究の成果

資料選定の基準を決め、魅力的な資料を選択すれば児童の内面に響く授業ができた。また、資料の活用方法を工夫すれば、道徳的価値への気づきや理解が高まり、内面化を図る授業ができた。視覚にうったえるような資料提示を行うと、資料内容や道徳的価値を捉えやすくなることがわかった。

道徳的価値の内面化を図る道徳授業の工夫
—資料の効果的活用を通して—

南城市立大里北小学校教諭 照喜名真理子

I 研究の目的

学習指導要領から

道徳性の育成

「道徳教育の目標は、第1章総則の第1の2に示すところにより、学校の教育活動全体を通じて、道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養うこととする。道徳の時間においては、以上の道徳教育の目標に基づき、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によってこれを補充、深化、統合し、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳の実践力を育成するものとする。」と記されている。また、新学習指導要領の総則に「道徳の時間を要として」と盛り込まれたのは、道徳の時間が学校の教育活動全体における中心的な役割を担うからである。本地区では、島尻教育のアクションプランの中にも豊かな心の育成が推進され、「心の教育」の充実が求められている。そのためにも、年間35時間の道徳の授業を意図的、計画的に実施していかなくてはならない。

道徳教育の 重点目標

本校の教育目標、道徳教育の重点目標を受け、中学年の重点目標として4つの柱がある。「よく考え、正しいと思うことをやり遂げること」「思いやりの心を持ち、友達と互いに信頼し合うこと」「自然のすばらしさや生命の尊さを受け止め、大切にすること」「約束やきまりを守り、公德心をもって行動すること」である。これらを念頭におき、児童の発達段階に応じて、道徳性を育成していく必要がある。

これまでの実践から

これまでの私の実践では、主に副読本の読み物資料を使い授業を行ってきた。しかしながら、読み物資料の流れを追う、読解指導的な授業になり、道徳的価値の内面化を図る授業が十分でなかったことは否めない。

児童の内面に 響かない

すなわち、児童は、資料の内容やねらいとする価値をわかっているが、日常生活の中でなかなか実践できないことから、児童の内面に響かない授業を展開しているのではないかと反省する。「心」は形になって見えないことから、心の変容は捉えにくい。日々の行動や言動を観察していてもわかりづらいつ感じている。そのことから道徳の時間においてどのような授業を実践していくか、どのように充実させていくかが鍵であると思われる。そのために、道徳的価値の内面化を図る授業の工夫、改善を行っていききたい。

本研究において

道徳の時間は、道徳の実践力を育成する場である。そのためには、資料の選定と活用、提示の工夫を図り、充実した授業を展開していきたい。

資料中の主人公などの気持ちや考えを通して、また友達の思いや考えを聞いて児童は学び合う。集団での学び合いの中で共感し、道徳的価値の理解を深めていくことができると思われるため、児童の心に響くような資料を選定したい。また、道徳的価値の内面化を図るために、効果的な資料の活用方法を考えたい。資料は副読本を基本に扱うが、児童の実態に合わせ絵本等も活用したい。さらに、資料提示では、視覚にうったえながら、子どもたちが登場人物の言動や生き方を考え、自己理解や他者理解をさせ、これからの生き方につなげたい。したがって、道徳授業においては資料が中心となる。児童の実態に即して、

資料を効果的に活用することにより、身近なものとして共感し、自分のこととして捉え、道徳的価値の内面化を図ることができるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究の目標

道徳的価値の内面化を図るために資料を効果的に活用した、道徳授業を工夫・改善していく。

III 研究の方法

1 資料の選定をする

学校の教育目標、学年の重点目標を考慮し、児童の実態にあった資料であるか、子どもの心に響く魅力的な資料を選択する。そうすることで、児童は資料をよりどころに道徳的価値を理解し、生き方の糧にしていくので慎重に選択する。

2 資料の活用方法を工夫する

資料の活用類型を把握し、資料を何のために、どのように活用するかを検討する。また、資料分析を行い、発問や板書計画とも関連させる。

3 資料の提示の工夫をする

資料との関わりを通して、児童は自己を見つめることから、児童の興味・関心を高め、学習意欲を喚起し、内容の理解を深め、自分のこととして捉えられるよう資料の提示の工夫を図る。

IV 研究内容

1 道徳的価値の内面化を図る道徳の時間の指導に関する基本構想

(1) 道徳的価値の内面化について

道徳的価値とは、人間らしくよりよく生きるための基礎基本となるものである。学習指導要領では、道徳的価値（内容項目）が小学校低学年 16 項目、中学年 18 項目、高学年 22 項目示されている。道徳的価値の内面化とは、それらを内面的に自覚させ、心にしみこませていくことである。すなわち、自分の心を耕し、「そうか、わかった、今度からやってみよう」と、そっと決意するようになることと捉える。また、自分にとって切実な問題だと受け止め、真剣に考える中で内面的葛藤があつたり、感動などを体験する中で気づいたり、自分の行為を変えていくことでもある。このような一連の心の動きが道徳的価値を内面化させる。

(2) 道徳的価値の内面化を図る意義とは（学習指導要領解説道徳編より）

人はみなだれもがよりよく生きようとしている。しかし、現在、子どもの自制心や規範意識の希薄化、生活習慣の確立が不十分であることなど、子どもたちの心と体の状況にかかわる課題は少なくない。したがって、生きる上で基盤となる道徳的価値観の形成を図ることが大切であり、自己の生き方について考えていくことが求められている。とりわけ、基本的な生活習慣や人間としてしてはならないことなど社会生活を送る上で、人間としてもつべき最低限の規範意識、自他の生命の尊重、自分への信頼感や自信などの自尊感情や他者への思いやりなどの道徳性を養うことが重要である。

(3) 道徳的価値の内面化した姿とは

学習指導要領解説道徳編では、道徳的価値の自覚についておさえておくべきこととして、①道徳的価値についての理解、②自分とのかかわりで道徳的価値がとらえられること、③道徳的価値を自分なりに発展させていくこと、の三つのことをあげている。そのことから、児童が基本的な道徳的価値を自分とのかかわりで捉え、理解し、その大切さに気づき、自分のものにして自己の生き方を見つめていくとき、実践へと移していけると考える。道徳的実践力が高まっていくときの姿、または高まった姿を道徳的価値の内面化している姿と捉える。

道徳的価値に
ついて

道徳的価値の
内面化とは

2 効果的な資料の活用

資料の意義

(1) 資料の選定について

① 資料の必要性

- ・ 道徳的価値を具体的な場面や状況の中で自覚させるため
- ・ 学級全体で学び合う共通の素材であるから
- ・ 子どもたちを現実の生活と切り離して学習させるため

② 道徳の時間に用いられる資料の具備すべき要件5つ(学習指導要領解説 道徳編)

- ・ 人間尊重の精神にかなうもの
- ・ ねらいを達成するのにふさわしいもの
- ・ 児童の興味や関心、発達の段階に応じたもの
- ・ 多様な価値観が引き出され深く考えることができるもの
- ・ 特定の価値観に偏しない中立的なもの

③ 道徳的価値の自覚を深めることができるようにするために具備する要件6つ(学習指導要領解説 道徳編)

- ・ 児童の感性に訴え、感動を覚えるようなもの
- ・ 人間の弱さやもろさに向き合い、生きる喜びや勇気を与えられるもの
- ・ 生や死の問題、先人が残した生き方の知恵など人間としてよりよく生きることの意味を考えたもの
- ・ 体験活動や日常生活等を振り返り、道徳的価値の意義や大切さを考えることができるもの
- ・ 悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題について深く考えることができるもの
- ・ 多様で発展的な学習ができるもの

④ 魅力的な資料を選択し開発するポイント

小学校『心に響き、共に未来を拓く道徳教育の展開』(文部科学省)

- ・ 資料を副読本だけでなく、文学、時事問題などに幅広く求める
- ・ 子どもとともに考えたい問題やテーマに照らして、資料化できそうなものを普段から収集してファイルしておく
- ・ 資料の表現形式を、読み物の形に頼りすぎないようにする
- ・ 校内や地域の素材を生かした資料や郷土資料を努めて発掘する
- ・ 資料・素材コーナーを整え、全教師の収集への意識を高める

以上のことを踏まえ、資料の選定にあたっては、まず副読本の資料をしっかりと読むことから始めた。同じ資料であっても、文章表現が異なっていたり、場面絵が変わっていたりする。その他に、文部科学省が編集している道徳教育推進指導資料や、道徳教育用郷土資料「守礼」(県教委)「月ぬ美しや」(石垣市教委)がある。これらの資料をあわせて、学校の道徳教育の基本方針や道徳教育の目標に即して、選択・活用していきたい。

また、道徳性検査を実施して、学級児童の優れている内容項目や高めていきたい内容項目を把握するなど、児童の発達段階や実態に合わせて、どの資料を選択すればよいか吟味する必要がある。

以上の中から、次の4つの基準で、資料選択をした。

- ア 本校の道徳の目標や学年の重点目標及び、児童の実態にそっているもの
- イ 教師も児童も心を打つもの(感動するもの・魅力的だと感じたもの)
- ウ 児童の生活につながる身近なもの
- エ ねらいを達成するのにふさわしいもの

⑤ 中心資料と補助資料

中心資料とは、児童に道徳的価値を理解させ、内面化させるための資料である。様々な資料があるが、一般的には読み物資料がそれにあたることが多い。授業の展開の過程で扱われる。補助資料は、主に導入や、終末で扱われる。導入では、生活経験を想起させたり、課題を把握させたりするための資料として、アンケート結果や写真等を用いることがある。また終末時に、児童の実践意欲を高めるための資料として手紙や心のノート等を活用する。

(2) 資料の活用について

●青木孝頼氏の資料の活用類型

道徳の授業においては、中心資料の活用の仕方は指導者によって異なり、展開の仕方が変わる。そこで、資料のもつ特質に着目して、有効活用しようとする考えが資料の活用類型である。青木氏のいう「四つの活用類型」は次のものである。

① 範例資料として活用する類型

この類型は、主人公が行った道徳的行為を児童に一つの範例として受け取らせようとする意図で資料を活用しようとするものである。

② 感動資料として活用する類型

この類型は、児童に深い感銘を与えることのできる資料であって、指導者がその感動を特に重視する意図をもって道徳授業に活用するものである。

③ 批判資料として活用する類型

資料中の主人公たちの行為や考え方を児童に批判させ、同時にその批判に対する弁護を出させて、道徳的な考え方や感じ方を深めさせようとする意図で資料活用しようとするものである。

④ 共感資料として活用する類型

資料中の主人公の考え方、感じ方に一人ひとり共感させることによって現在の価値観の自覚を促すという意図で、資料活用しようとするものである。

その他、迷いや葛藤により深く考えさせる葛藤資料、児童に道徳的知識を教えたり、気づきを得ることを重視した知見資料等がある。また、資料の多様な活用方法の工夫として、資料の内容に合わせて道徳の時間の一部でアイマスク体験などの模擬体験をしたり、ゴミの分別などの実際的な活動を一部取り入れたりするなど、体験的な活動を併せて実感的に資料の理解を深める方法も考えられる。

(3) 資料の提示について

道徳の時間における資料の提示は、児童を資料の中に引き込むために重要である。読み物資料では、教師による読み聞かせが多く、一般的である。読み聞かせは学級の実態に合わせ、教師の表現の工夫を凝らした提示ができる。さらに、資料の内容や児童の実態に応じて、一斉音読をする、黙読をする方法も考えられる。また、あらかじめ、声を録音しておくこともできるし、BGMを流しながら読む方法もある。同じ読み物資料でも、ビデオやDVDを視聴させたり、プロジェクターで投影する方法もある。映像にすると、児童の集中力も高まる。その他に、紙芝居、ペープサート、絵や写真、実物を見せる、資料を分割する等、さまざまな資料提示の工夫がある。

V 研究の実際

児童の実態を把握し、道徳の授業を11回実施した。価値の内面化を図る手だてとして、はじめに資料の選定を行い、次に資料の活用、資料の提示に焦点を当て、授業

実践を行った。道徳の授業を充実させるため、4資料は、二学年にまたがって授業実践した。また、他校の協力を得て授業を行った。1回目の授業を振り返り、指導の改善点を見つけ、見直して2回目の授業に活かすよう努めた。

1 授業実践計画

回	学年	主題名 資料名	資料の選定 (選定基準とその他の理由)	資料の活用	資料の提示
1 2	3年 4年	きまりは何のために 4-(1)公徳心, 規則の尊重 「きまりじゃないか」 (東京書籍3年)	・児童の生活につながる資料 ・新学年のスタートにあわせて ・天候と関連させる (梅雨時)	・範例資料	・登場人物の顔 ・場面絵
3 4	4年 3年	真心の美しさ 3-(3)敬けん 「花さき山」 (東京書籍4年)	・教師も児童も, 心を打つ資料 (感動するもの) ・読書月間にあわせて	・感動資料	・絵本 ・場面絵
5 6	4年 3年	友達と助けあって友情を 深める 2-(3)(友情) 「さとしの心」 (文溪堂3年)	・学校の道徳目標や学年の重点 目標にあっている資料	・共感資料	・場面絵 ・資料の分割提示
7	4年	かけがえのない大切な 命 3-(1)生命の尊重 「平和の祈り」 (大里北小児童の詩) 「平和の礎」 (文溪堂3年)	・学校の道徳目標や学年の重点 目標にあっている資料 ・ねらいを達成するのにふさわ しい資料 ・慰霊の日にあわせて (平和学習)	・共感資料	・写真 ・児童の詩 ・CD
8 9	3年 他校 3年 (本 時)	まっすぐな心 1-(4)正直誠実, 明朗 「なしの実」 (東京書籍4年)	・児童の実態にそっている資料 ・児童の生活につながる資料	・共感資料	・写真 ・パネル ・登場人物の顔 ・紙芝居 ・本 ・心のノート
10	2年	隠さず正直に 1-(4)正直誠実, 明朗 「まどガラスと魚」 (文溪堂3年)	・児童の生活につながる資料	・葛藤資料	・パネル ・紙芝居 ・心の迷いを表現 したハート ・心のつな引き
11	3年	目標に向かって 1-(2)勤勉努力 「まけるものか」 (東京書籍3年)	・児童の生活につながる資料 ・道徳性検査で全国の傾向より 下回っていた内容項目	・共感資料	・写真 ・場面絵 ・幼少の頃の絵 ・本

2 授業実践例 ① (6月21日)

(1) 主題名 **かけがえのない大切な命** 3-(1) **生命の尊重** (共感資料)

(2) 資料名 **平和の祈り**

(3) 資料観

この資料は本校児童の卒業生が書いた詩であり、第19回児童・生徒平和のメッセージ(詩の部)で最優秀賞に選ばれたものである。昨年6月23日の慰霊の日に、慰霊祭会場で力強く朗読された。家族と一緒に平和祈念公園内にある平和の礎を訪れたとき、石をさすり、強く抱きしめる祖母を目の当たりにする。涙を落としながら、つらく悲しい思いを語る祖母を見て、戦争のない平和な国を築こうと心に誓う。そして、祖母の祈りを引き継ぐ決心をするという内容の詩である。後に、この詩には曲がつけられた。

(4) 児童観 (省略)

(5) 指導観

これまでの授業では、中心資料に副読本の読み物資料を扱ってきた。1回目の授業の評価を生かし、2回目の授業で改善を図っていく。この授業は一学年のみでの実践となる。補助資料に副読本の資料「平和の礎」を扱い中心資料に児童の詩「平和の祈り」を扱う。導入では、平和の礎の写真を提示し、どのような場所なのか知っていることを発表させる。展開においては、「平和の礎」の資料から、「礎」が亡くなった人々への追悼の意を表していることや、御霊をなぐさめるとともに、平和の尊さや平和の心を世界へ発信していること等を理解させたい。また、「平和の祈り」の資料から祖母の気持ちを想像させるため、教師と児童で石をさすり、石をだきしめる役割演技を行う。かけがえのない大切な命を守るためにはどうすればよいのか、じっくりと考えさせワークシートに書かせる。更に、一人ひとりに自分の思いを発表させたい。

(6) 本時の学習

① 本時のねらい

生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する態度を育てる。

② 検証の視点と指導のポイント

ア 資料選定の工夫

- ・資料の内容理解を助けるため、また早めるために、「平和の礎」の資料と先輩児童の書いた「平和の祈り」の資料2つを選定する。展開の前段で効果的に活用することにより、平和や命の尊さについてより深く考えることができる。

イ 資料活用の工夫

- ・共感資料として活用することにより、祖母の想いと憲太の2人の想いを考えることができる。
- ・授業の流れや、時間配分を考え、「平和の礎」の資料は要約して活用する。

ウ 資料提示の工夫

- ・「平和の礎」の写真を拡大して提示することで、本時のねらいとする価値への導入を図ることができる。

(7) 本時の展開

過 程	学習活動（主な発問と予想される反応）	(○留意点 ◎指導の工夫) (☆検証の観点と評価の方法) (★評価の観点)
導 入 5 分	1 「平和の礎」の写真を見て、どういう場所なのか問いかける。 ・戦争で亡くなった人の名前がある。 ・沖縄戦でたくさんの人が亡くなった所である。	○資料への方向づけをする。 ☆大きな写真資料に注目し、真剣に見ることができたか。 授業観察（態度、表情）
展 開 前 段 25 分	2 「平和の礎」を読んで話し合う。 ①どんな思いから礎は設置されたのでしょうか。 ・亡くなった人たちの霊を慰めるため。 ・戦争を二度と起こさせないように。 3 「平和の祈り」の詩を読んで話し合う。 ①石をさすり、石を抱きしめたおばあさんの気持ちを想像しましょう。 ・悲しい思い出がある。 ・つらい気持ち。 ・くやんでいる。 ②「いっしょに連れていけばよかった」「ごめんね ごめんね」と言って涙を流すおばあさんを見て、憲太はどんな気持ちになったでしょう。 ・おばあさんがかわいそう。 ・戦争がなければこんなことにはならなかったのに。 ・沖縄に戦争は似合わない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">③かけがえのない大切な命を守るためには、どうすればいいでしょうか。</div>	☆資料を2つ選択し、展開前段で読んで話し合うことは、平和や命の尊さについてより深く考えさせることができたか。 (授業観察、発言) ○「平和の心」を広く内外に伝え、世界中の恒久の平和を願って設置されたことをおさえる。 ◎石をさすったり、抱きしめたりする仕草を行う。(教師と代表児童による役割演技) ○戦争の悲惨さ、生命の大切さへの意識を高めたい。 ☆資料中の2人の思いに共感することができたか。 (発言、つぶやき) ○自分の命を守ることの大切さを自覚させたい。 ★「命どう宝」について考えることができたか。
展 開 後 段 10 分	4 命を守るにはどうしたらいいか発表し合う。 ・みんなと仲良くする。 ・危ない遊びではないか、よく考えて遊ぶ。 ・車に気をつける。	◎ワークシートに書いたことを、一人ひとり発表させる。 ○発言できなかった児童には、友達の発表を聞いて、命の尊さについて考えさせるようにする。
終 末 5 分	5 教師の説話を聞く。 ・「平和の祈り」のCDを聞く。	○慰霊の日の話をする。 ◎詩を見ながらみんなで歌う。

(8) 評価

自分の尊い命を守ることを自覚し、二度と戦争を起こしてはならないことを考えさせることができたか。

(9) 授業の考察と次時の改善点

① 「資料の選定」について

2つの資料を選定したのは意図があった。展開場面において副読本の資料「平和の礎」を先に配布し、平和の礎がどのような場所なのか、なぜ設置されたかを学習することは、続いて配布した「平和の祈り」の資料内容の理解を助ける結果となった。(図2) また、自分たちの先輩が書いた詩であるということもあり、児童は身近に感じたようである。詩に書かれた言葉の意味や重みを一人ひとりが考えていた。それは、歌を歌っている時の児童の表情からもうかがうことができた。また私自身にも「生命尊重」を考える教材(資料)として心に響くものがあった。資料選定は児童に考えさせる時間を与えることができ、手だてとして有効であったといえる。

② 「資料の活用」について

自分が祖母や憲太と同じ立場に置かれたら、自分ならどう感じたり考えたりするか、本資料を共感資料として活用したところ、自分とのかかわりで真剣に考える児童の姿が見られた。

図1は「主人公の気持ちになって考えることができたか」に対する自己評価の結果である。

「できた」と答えた児童が57%で6割近くの児童が資料中の主人公を通して、自分を見つめることができたといえる。「あまりできなかった」が3%と一人いたが、「できなかった」という児童は0%であり、資料の選定と活用によって、児童は内容の理解を深め、資料を通して自己の内面を見つめることができたといえる。

③ 「資料の提示」について

図2は、「資料の内容理解」の結果である。同時に、資料の提示方法がどうであったかがうかがえる。「わかった」と答えた児童が86%で、8割以上の児童がわかりやすかったと回答している。本授業は内容的には難しいと思われたが、2つの資料の話を実際に聞く姿が見られた。

「平和の祈り」の詩を読んでいるときも、全員が静かに注目していた。また導入時の平和の礎の写真資料も、ねらいとする価値へ迫ることができて、効果的であった。

④ 課題：資料を読んでいるとき、子どもたちにとって理解しにくい内容や文言には注釈を加えたり、補足をしたりして、わかりやすく伝える必要がある。

改善点：教師の読み聞かせによる提示は、声のトーンや間の取り方等、子どもたちの目や耳を引きつけるような読み方をするように努める。

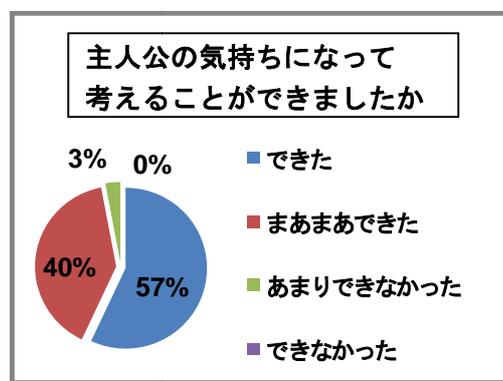


図1 資料の活用と提示 (28人)

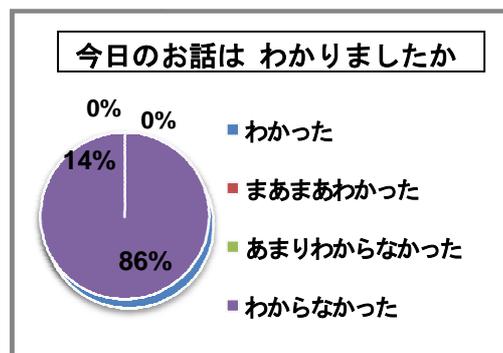


図2 資料の内容理解 (28人)

3 授業実践例 ② (6月30日)

(1) 主題名 まっすぐな心 内容項目 1－(4) 正直誠実, 明朗

(2) 資料名 「ナシの実」

(3) 資料観

この資料は「昆虫記」に書かれているアンリ・ファーブルの少年時代のエピソードをヒントに、ねらいに合うように作成したものである。弟にせがまれ、となりの家のナシの実をとってしまったアンリが、夕食後、父に呼ばれ、ナシの食べかすについて問いつめられる。はじめはうつむくばかりであったアンリだが、父の気持ちを聞くうちに、いたたまれず、涙を流しながら正直に話し始めるという内容である。

(4) 児童観 (省略)

(5) 指導観

資料「ナシの実」を共感資料として扱い、うそをついたりごまかしたりすると、どんな気持ちになるか、正直に行動することの大切さをアンリの気持ちを通して気づかせたい。導入では、補助資料として本「昆虫記」とアンリの写真を提示する。展開の前段では、中心資料として大きなパネルを活用したい。主人公の気持ちに、より共感させるため、紙芝居にして提示をする。展開後段は、価値の内面化を図るところである。ここでは、心のノートを補助資料として活かしたいと思う。そのことにより、それぞれの自分の生活を振り返り、考えさせたい。

(6) 本時の学習

① 本時のねらい

正直に明るい心で、元気よく生活しようとする態度を育てる。

② 検証の視点

ア 資料活用の工夫

- ・本資料は、主人公（アンリ）の気持ちに共感させることを意図して、共感資料として活用する。アンリの気持ちを考えることにより、本時のねらいにせまる。
- ・終末で、心のノートを活用し、正直に話したときの快適さを自覚させる。

イ 資料提示の工夫

- ・中心資料では、展開の前段で揺れ動くアンリの気持ちを捉えさせるため、紙芝居を行う。その後、パネルを提示する。
- ・補助資料として、導入では、本と写真を提示する。

(7) 本時の展開

過程	学習活動（主な発問と予想される児童の反応）	指導上の留意点	
		★検証の視点	★評価の観点
導入 5分	1 「昆虫記」を紹介し、アンリ・ファーブルについて話をする。 ・フランスの昆虫学者1823年に生まれた。	○ファーブルについて知っている事があれば、児童に発表させる。 ★視点イ（本と写真を提示）	
	2 「ナシの実」を読んで話し合う（紙芝居） ①フレデリックにせがまれ、ナシの実をとっているとき、アンリはどんなことを思ったでしょう。 ・困ったな弟だな。 ・誰かにみつからないかな。 ・少しくらいならいいかな。	★視点ア（共感資料として活用） 視点イ（紙芝居・パネルで提示） ○迷いながらも、弟のためにやむなく取ろうとしている気持ちをおさえる。	

展開前段	<p>②アンリがお父さんの前でうつむいていたとき、どんなことを考えていたと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱりやめておけばよかった。 ・どうしよう怒られる。フレデリックのせいだ。 ・何と言いわけをしようかな。 	<p>○まだ迷いがあり、自分をつくろうことを考えていることをおさえる。</p> <p>○フレデリックが悪いんだという意見が出たときには、話し合っ、自分がしてしまった事は、自分に責任があるということに気づくようにする。</p>
20分	<p>③ お父さんの胸に飛び込んでいったアンリは、どんなことを考えていたでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごめんなさい。 ・もう二度とうそをつくようなことはしないよ。 ・お父さん達の気持ちも知らないで悪いことをした。 ・本当のことが言えてスッキリしたな。 	<p>○正直に言った後のすがすがしい気持ちを感じとれるようにする。</p> <p>○ワークシートに記入する。</p> <p>★お父さんの胸に飛び込んでいったアンリの気持ちを考えることができたか。</p>
展開後段	<p>3 自分の生活を振り返って考える。</p> <p>①本当のことを言って、よかったなと思ったことがありますか。それはどんなことでしたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達に借りたおもちゃを壊してしまった。黙って返そうか迷ったけど、正直に謝った。 	<p>○児童にとって発言するのに勇気がある発問なので、やさしく受け止め、無理に発言を求めない。</p>
終末	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>○「心のノート」 P24～27</p> <p>○正直に言えたとき、心がスッキリして明るく元気に生活できることを話す。</p> <p>★視点ア（心のノート活用）</p>

(8) 評価

アンリの正直に言おうとした気持ちに共感し、そのよさに気づくことができたか。

(9) 本時の考察と次時の改善点

①「資料の選定」について

資料「ナシの実」の主人公と同じような体験が、これまでにあったのではと推測する。この資料は、さまざまな場面での自分の行為を思い起こさせたり、今後の自分の行動や態度を考えさせられたりするような資料であった。図3は、道徳的価値の自覚と内面化の結果であるが、52%（14人）の児童が自分の行いを考えることができたと答えている。まあまあできた児童は41%（11人）で、あまりできなかった児童は7%（2人）である。できなかったという児童はいない。この結果より、半数の児童は道徳的価値を自覚し、価値を内面化することができたと思われる。教師の観察から、ほとんどの児童が主人公と同じ立場や状況におかれたら、自分ならどう感じたり考えたりするかを、追体験していた。

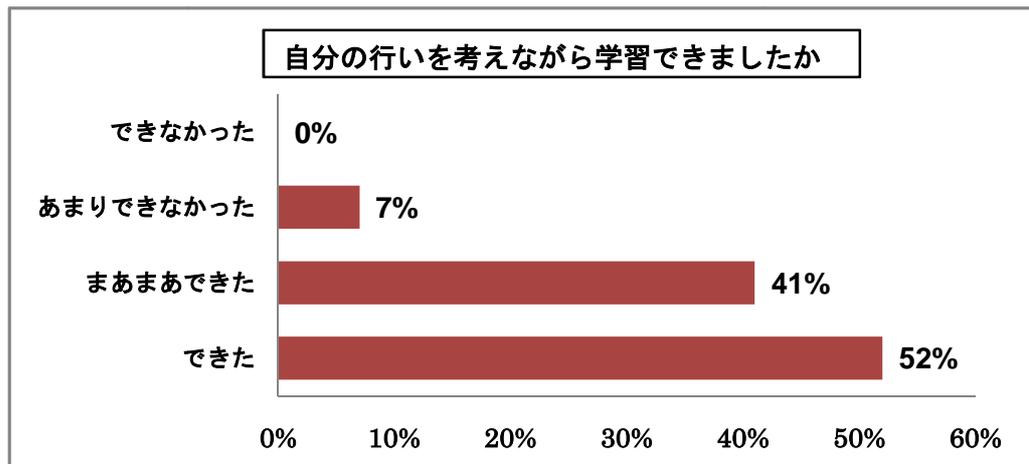


図 3 道徳的価値の自覚・内面化 (27人)

② 「資料の活用」について

うそをついたりごまかしたりすると、どんな気持ちになるのかを、主人公の気持ちを通して気づかせるようにするため、共感資料として活用した。児童一人ひとりに揺れ動く主人公の気持ちを感じとらせる工夫として、主人公の顔を対比させるようにしたので、資料の中の枠をこえ、自分のこととして考える児童の姿が見られた。(図4) また「心がすっきりする」という児童の発言があった。自分に正直になれば、心がすっきりして、いつも明るく元気でいられることに気づいたようだ。

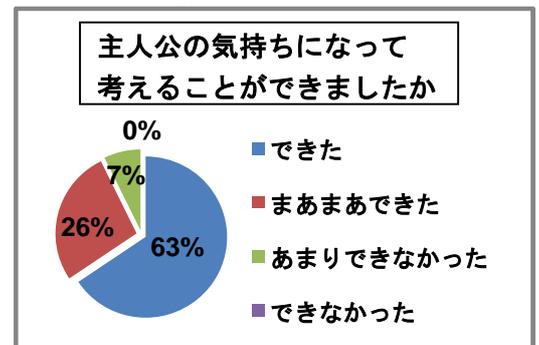


図 4 資料の活用と提示 (27人)

③ 「資料の提示」について

主人公の気持ちを捉えさせるために、紙芝居を行った。児童は紙芝居を食い入るように見ていた。普段なかなか話を集中して聞けない児童も、しっかりと前を見て聞いていた。図5の結果より、今日のお話は「わかった」と答えた児童が81%で22名である。「まあまあわかった」と答えた児童は15%で4人である。「あまりわからなかった」は4%で、1人である。資料の提示の仕方により、資料内容の理解度が高まることがわかった。資料提示の方法を工夫することは、児童の視覚にうったえ、資料内容や道徳的価値の理解を助け、手だてとして有効であるといえる。

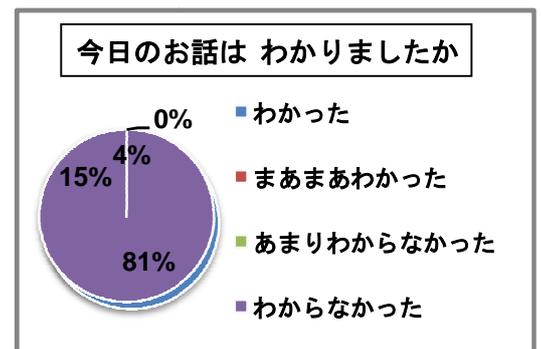


図 5 資料の内容理解 (27人)

- ④ 課題：読み物資料を教師がいかに把握するか、また児童にどのように把握させるか、常に工夫が必要である

改善点：児童が資料内容を自分のこととして捉えることができるよう、資料の役割を考え、効果的に提示をする。

4 授業実践の結果

資料名 ★2回実践	改善点	成果
★「きまりじゃないか」	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の考える時間を増やす。 ・主人公の顔の表情をかえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の言葉と表情から、きまりを守る意義について考えさせることができた。
★「花さき山」	<ul style="list-style-type: none"> ・人の心についてじっくりと考えさせる。 ・主人公あやのやさしさや辛抱することをより捉えやすくするために、提示資料をかえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が美しい心について考え、余韻をもって授業を終えることができた。 ・主人公の言動を見て、自己を振り返り考える児童が多かった。
★「さとしの心」	<ul style="list-style-type: none"> ・資料が長すぎて、粗筋を理解するまでに時間を要した。 ・資料中の挿絵を1つ抜き取り、資料を配布する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分割提示をすると、資料内容の理解がはやかった。 ・資料の挿絵を抜き取り、その場面での主人公の気持ちを想像させることで、主人公に、より共感させることができた。 ・主人公の言動について、考える時間が増えた。
「平和の祈り」	<ul style="list-style-type: none"> ・補助資料「平和の礎」の言葉の意味が難しいため、内容理解が遅い児童がいた。かみ砕いて教える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩児童の詩を中心資料として扱うことにより、平和の尊さや命の重みについて考えることができた。 ・詩を見ながら、思いを込めて歌を歌っていた。
★「ナシの実」	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動が2回あって、時間内に授業を終えることができなかった。 ・パネルの絵が発問とずれていたため、パネル1を2にかえて提示する。 ・紙芝居を読む声が小さかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・終末を、教師の説話から、心のノートの活用にかえることにより、時間内に終了できた。 ・☆発問にそったパネルの提示ができた。 ・声の大きさを考え、抑揚をつけながら感情を込めて読んだ。
「まどガラスと魚」	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示資料が多いため、資料提示の順序をよく考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年にも紙芝居での提示は有効で、静かに聞いていた ・主人公の葛藤する心情を捉えさせるため、掲示資料を作製した。
「まけるものか」～野口英世～	<ul style="list-style-type: none"> ・「手ん棒」の言葉の意味について資料を見せながら、詳しく説明し、からかわれた清作のつらい気持ちに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の場面で、自分がやりかけたことを途中でやめた経験を児童に発表してもらったのは、ねらいとする価値への方向付けとして、効果があった。 ・幼少の頃の主人公の様子を本から調べ、提示することにより、内容の理解がスムーズであった。

VI 研究のまとめ

本研究においては、道徳的価値の内面化を図るために「資料の選定」「資料の活用」「資料の提示」を手だてとして授業実践を行ってきた。実践の結果（授業実践例①と②，その他の授業実践）でわかったことをまとめる。また，児童の変容については，自己を振り返るアンケート，事前・事後アンケート(5月・7月)，道徳性検査よりまとめる。

1 資料の効果的な活用（資料の選定・資料の活用・資料の提示）から

資料の選定	<ul style="list-style-type: none"> 児童は資料をよりどころに，道徳的価値を理解し，内面化していく。人としての生き方や考え方を学び，自己を見つめ考えを深めていくうえで資料は重要であるから，児童の実態等に合わせ，教師が基準を決めて選択すればよい。
-------	---

		授業実践よりわかったこと	指導のポイント
導入	資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> 拡大した写真や場面絵を活用すると，ねらいとする価値への方向づけができてよい。 資料への直接導入を図ると，資料への興味・関心が高まり，主人公の気持ちにより共感できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 副読本の資料の挿絵や写真等を拡大し，有効に活用する。
	資料の提示	<ul style="list-style-type: none"> 偉人などの実在した人物が資料に出てくる場合は，写真やその人物の肖像画を準備し，何をした人か解説をすると，児童は興味・関心をもって話を聞くことができる。 低学年には，登場人物をあらかじめ紙に書いておき提示すると，登場人物に親しみやすくなる。また資料内容の理解がはやくなる。 	
展開	資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> 資料のもつ特質に着目して，活用類型を考えると，効果的な資料の活用ができる。 補助資料は，資料内容の難しいところを補足してくれる。 児童が好きな絵本を資料として活用すると，集中して話を聞き，絵本の中の世界に引き込むことができ，共感的活用にも有効である。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の読み聞かせは，読む速さや声の大きさ等感情を込めて読む。
	資料の提示	<ul style="list-style-type: none"> 資料の分割提示は，児童に考える場を与えることができ，道徳的価値について考えを深めるのに有効であった。 読み物資料を教師が読み聞かせする際は，表現の工夫を行うと，より効果的である。 資料を紙芝居にして提示すると，視覚にうったえ，児童が道徳的価値を捉えやすくなる。 葛藤資料では，児童の心の迷いを大切にすると本音が出る。 	
終末	資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> 感動資料では，余韻を持たせて終わると，児童の心に届き，道徳的価値の内面化を図ることができる。 心のノートを活用する。（自分の思いを書き込んだり，書かれている事柄について考えたりすることができる。） 教師の説話は児童が親身になって聞くので，丁寧に話をする。 CDを流し，みんなで歌を歌うことによって，児童の心に響かせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 実践意欲がわいてくるようにする。
	資料の提示	<ul style="list-style-type: none"> 補助資料を提示することで，感動を深めることできる。 格言や名言を紹介して，道徳的価値をもう一度深く考えさせることができる。 	

道徳授業では、児童に考えさせる時間を十分に与えることが重要であることがわかった。また、中心資料となる読み物資料や、補助資料の役割を考え、その活かし方を工夫することによって、道徳授業を充実させることができた。資料の読み聞かせによる提示は、クラスの実態をよく知っている担任が行うと、より効果的であることもわかった。教師は、表現の工夫を凝らし、真剣に話を聞く児童の眼差しを大切にしながら語り聞かせたい。

2 児童の変容から

① 自己を振り返るアンケートの結果（道徳授業の最後に毎回実施）

（児童の心の変容や手立ての有効性を確かめるためのものである。）

ア 今日のお話はよくわかりましたか。（資料提示）

イ 主人公の気持ちになって考えることができましたか。（資料の活用と提示）

ウ 自分の行いを考えながら学習できましたか。（道徳的価値を自覚・内面化していく）

エ 自分の思いや考えを友だちに話すことができましたか。（内面化していく）

表1 手立ての有効性

資料名	学年	※ 4件法で、わかった、できた と回答した児童の割合			
		ア	イ	ウ	エ
1 「きまりじゃないか」	3年	77%	40%	44%	37%
	4年	100%	55%	55%	27%
2 「花さき山」	4年	90%	61%	61%	41%
	3年	85%	51%	51%	40%

表1は、手立ての有効性を確かめるためのアンケート結果である。資料1「きまりじゃないか」では、エを除く3つの項目で数値が上回っている。発達段階が異なるため変化が大きいと思われる。同じ資料を使い、道徳の授業を2度行うことで、教師が児童の実態をより把握することができ、1回目の授業で出てきた課題を2回目の授業で改善することができた。資料2「花さき山」でも、同じように授業改善を行ってきたのだが、数値は下回っている。そのことから、資料によって、児童の道徳的価値の捉え方は違うようである。また資料1と資料2を比較すると、ウとエの項目、道徳的価値の自覚、内面化においては、前回よりも数値が高まっている。それは、児童の感性にうったえる感動資料であったからだと思われる。

② 授業実践の事前・事後のアンケート結果

図6は、「道徳の時間は好きですか」の問いに対する結果である。

「好き」「どちらかといえば好き」と答えた児童を合わせると、5月は92%で24人であったのに対し7月は100%で26人になった。

また、四月に行った道徳性検査の結果から、本学級の児童の上回った内容項目（価値項目）は、2-（1）礼儀と4-（5）郷土愛である。その他は全体的に全国とほぼ同じ傾向がみられた。全国の傾向より下回った内容項目は、1-（2）の勤

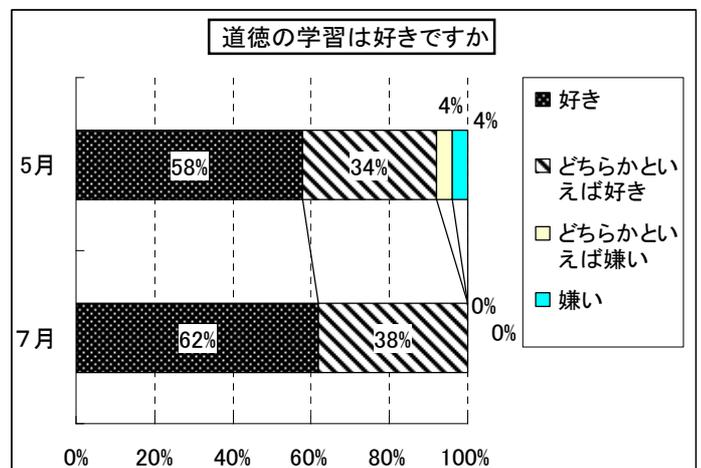


図6 児童の心の変容（26人）

勉・努力と1-(3)勇気であった。本学級の児童は、道徳が好きと回答した児童が多く、思った以上に望ましい傾向が見られた。

3 道徳的価値の内面化を図ることができたか

図7は、自己を振り返るアンケートより、ウとエの項目を抜粋したものである。(VIの2-①参照)「道徳的価値の内面化が図られたか」の本学級の結果である。5回の授業で一番低い数値は37%で10人、クラスの3分の1を占める。高い数値は、56%で15人であり、半数を越えている。全体的に見ると、数値に波があり、道徳的価値の内面化が図られたとは言い難い。内面化を図ることの難しさを感じた。

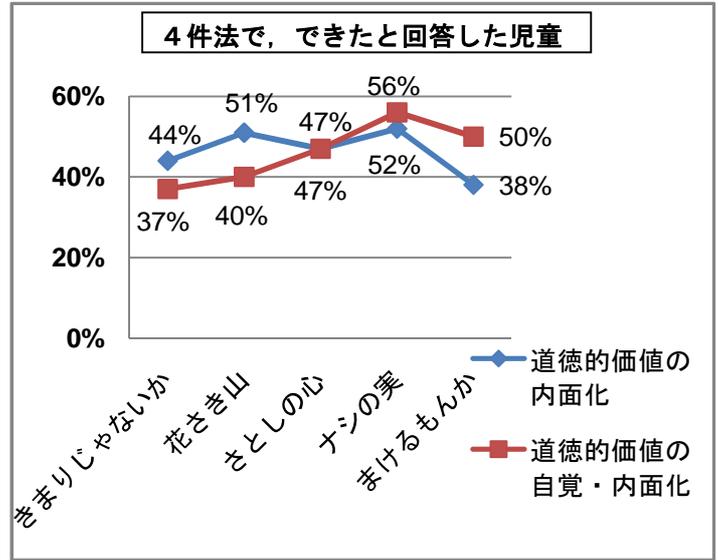


図7 道徳的価値の内面化（3年）

本研究のテーマである「道徳的価値の内面化を図る道徳授業の工夫」に迫るために、多くの資料に目を通し、どのような資料を選定するか、基準を決め、児童の実態に合った資料を選定してきた。また、資料の役割を考え、資料の特質を活かした活用を心がけて授業を実践してきた。さらに、それらの資料をいかに提示すれば、児童の心に迫ることができるか、その方法を探りながら授業の工夫・改善を行った。

7つの資料のうち、4資料においては、1回目の授業を振り返り、改善点を明確にした。児童の反応を見ながら、毎回授業記録を取っていき、反省点を踏まえ2回目の授業を充実させていくことにより、道徳授業の質を高めることにつながった。

このように、授業実践を重ねることで、児童が集中して話を聞く姿が見られ、積極的に発言する児童が増え、実践前とは明らかに違う手応えを感じた。資料の提示の仕方を学ぶことができ、資料によって児童を惹きつけることができた。道徳授業では、教師が資料の準備を十分に行い、授業に臨むことが大切であると痛感している。またそのようにして、教師の授業力も高まっていき、道徳授業が充実してきたと思われる。

しかしながら、実際には、道徳的価値の内面化を図ることができたかどうか、数値化して結果を表すのは難しい。

児童は資料を通して、道徳的価値を学ぶ。そして、友達との学び合いを通して、自己を見つめ、他者のことを考えることができる。また、道徳の時間において、これまで気がつかなかった価値や、普段あまり考えなかった価値に触れたりすることで、考えを深めることができると思われる。道徳的価値は、そうやって少しずつ、児童一人ひとりの中で形成されていくものと考えられる。将来、あらゆる場面や状況の中で、それらを自分のものにしていくとき、内面化が図られていくのではないだろうか。

この研究を通して、道徳の理論に基づいて実践を深めることができた。児童が自己の生き方を見つめながら考えを深めていけるよう、これからも資料を効果的に活用しながら、道徳授業を大切にするとともに、道徳授業が成立する学級経営を目指していきたい。

道徳授業の工夫・改善

数値化は難しい

道徳的価値の形成を図る

VII 研究の成果と今後の課題

1 成果

- (1) 資料選定の基準を決め、魅力的な資料を選定すれば、児童の内面に響く授業が展開できることがわかった (V-3-(9)①)。
- (2) 資料の活用方法を工夫すれば、道徳的価値への気づきや理解が高まり、内面化を図る授業ができた (V-2-(9)②)。
- (3) 視覚にうったえるような資料提示を行うと、資料内容や道徳的価値を捉えやすくなることがわかった (V-3-(9)③)。

2 課題

- (1) 自己を見つめ考えさせる時間の十分な確保。
- (2) 道徳的価値の内面化を客観的にどう捉えるか。
- (3) さらなる、資料の効果的活用の工夫。

〈主な参考文献〉

文部科学省 編	『小学校学習指導要領解説 道徳編』	東洋館出版社	2008年
文部科学省 編	『心に響き、共に未来を拓く道徳教育の展開』	財務省印刷局	2002年
押谷由夫／内藤俊史 編著	『道徳教育』	ミネルヴァ書房	1993年
	『道徳教育』	明治図書	2007年
	『道徳教育』	明治図書	2008年
沖縄県教育委員会	『学校教育における指導の努力点』		2010年